胸水から *Campylobacter showae* を検出した 1 症例

◎塚本 のはら [1)]、成田 妙子 [1)]、横尾 篤美 [1)]、石川 愛梨 [1)]、弥永 正子 [1)]、船島 由美子 [2)]、永沢 善三 [2)]
医療法人社団 高邦会 高木病院 検査技術部 [1)]、国際医療福祉大学 福岡保健医療学部 医学検査学科 [2)]

【はじめに】*Campylobacter* 属の *Campylobacter showae* は 1993 年に本邦で最初に報告された。形態はグラム陰性桿菌を示し、嫌気的環境下で発育する。本菌は主に口腔内から検出され、歯周病との関連も知られているが、近年では炎症性腸疾患、大腸癌、胆管炎との関連や菌血症についても報告されている。今回、患者胸水から *C. showae* の検出を経験したので報告する。

【症例】80 代男性、肺気腫の既往があり、右胸痛の精査のため当院を受診した。CT では右胸水および膿胸を認め、抗菌薬加療目的で入院となった。入院初日にスルバクタム/アンピシリンを投与されたが、入院 19 日目にメロペネムへ変更、その後、症状の改善が認められ入院 93 日目に退院となった。入院中、精査目的のため胸水の微生物検査が 5 回提出された。提出された胸水はいずれも黄白色から黄緑色の膿性であった。

【微生物学的検査】入院 12 日目に提出された胸水のグラム染色像では、ごく少数のグラム陽性桿菌を疑う像が確認されたが、好気および嫌気的条件下いずれの培養でも菌の発育は認めなかった。そのため、HK 半流動培地で増菌培養後に再度培養を行った結果、嫌気的条件下でグラム陰性桿菌の発育を認めた。MALDI Biotyper (Bruker) による菌種同定を試みたが同定不能であったため、16S rRNA 遺伝子解析を実施した結果、*C. showae* と同定された。尚、他の 4 検体では菌の発育を認めなかった。

【考察】今回、検出された *C. showae* は提出された 5 検体のうち 1 検体のみから検出され、培養結果と胸水のグラム染色像には乖離がみられた。また、増菌培養後に発育を認めたため元々胸水に含まれていた菌量はごく少数であったと考えられる。検出菌の病原的意義は不明であるが、膿胸は口腔内常在細菌などの胸膜への感染による発症が多いこと、*C. showae* は口腔内に存在する菌種であることから誤嚥の可能性が示唆された。今後、胸水の培養時は口腔内由来の細菌が検出される可能性に留意し検査を進める必要がある。

“連絡先 ― 0944-88-8283”